

令和元年度



学校だより

伸びよう 豊かに たくましく ~学ぶ喜びにあふれた学校をめざして~

令和元年5月28日
横浜市立高田小学校

6月号

「祈りは時をこえて」

副校長 田島 良子

教師になってまもないころ、転校していく保護者から1冊の本がわたされました。開いてみるとこんな言葉から始まっていました。

たれもかれもが力いっぱい のびのびと生きてゆける世の中
たれもかれも「生まれて来てよかった」と思えるような世の中
じぶんを大切にすることが 同時にひとを大切にすることになる世の中
そういう世の中を来させる仕事が きみたちの行くてにまっている
大きな大きな仕事 生きがいのある仕事

吉野源三郎

少し前に書店で目立つように置かれていた『君たちは どう生きるか』の著書の吉野 源三郎さんの言葉です。そして、この言葉のとおり、大きな仕事をこの高田小学校に形に残された先生がいらっしやいました。創立95周年記念誌の中に偶然見つけたので、紹介いたします。

教職最後の暮のボーナスを みんな使うことにきめた私はその三分の一で土管をつみあげた遊び場を作った。下手な文字で「よい子になあれ。大きくなあれ。」と書いたあれは、広いおおらかな、明るい人間になってほしいという高田の子供への祈りをこめた文字だ。(中略)そして私は今もなお、考える子ども、自分と共に人の自由も認める子ども、たくましい心身を持ったひとり歩きのできる子どもは、テストの連続のみでは生れないことを信じている。

今も子ども達が遊んでいるあの土管に、そんな歴史があったことに驚きました。当時に書かれた文字こそ残っていませんが、その願いは祈りとなって、145周年の学校に通う子ども達にもしっかりと届いていることでしょう。毎日、はりきって学校に通ってくる子も、大人に言われたことをまず頑張ってみようとする子も、自分の気持ちと折り合いをつけながら今日を過ごしている子も、みんな、「ああ、高田小学校は楽しかったな」と思えるような学校でありたいと、願いはいつの時も変わりません。大きな大きな仕事、生きがいのある仕事を、土管の遊び場を作ってくださった先生のように、私たち教職員も、全うしていきたいと思えます。

今月も、遠足に続き宿泊学習があります。これまで同様に、よろしく願いいたします。

また、長い歴史のある学校は、何気なく置かれている物ばかりでなく樹木なども、引き継ぐべき大切なものがあります。時代の流れや安全面から残し方を考えなければならないこともありますが、その心を置いていくわけにはいきません。学校にある物の始まりやその経過、エピソードなどを知っていらっしやる方は、ぜひ、学校にご一報くださいませ。